



# 民俗資料の収集と保存に関する 小規模地方博物館の状況

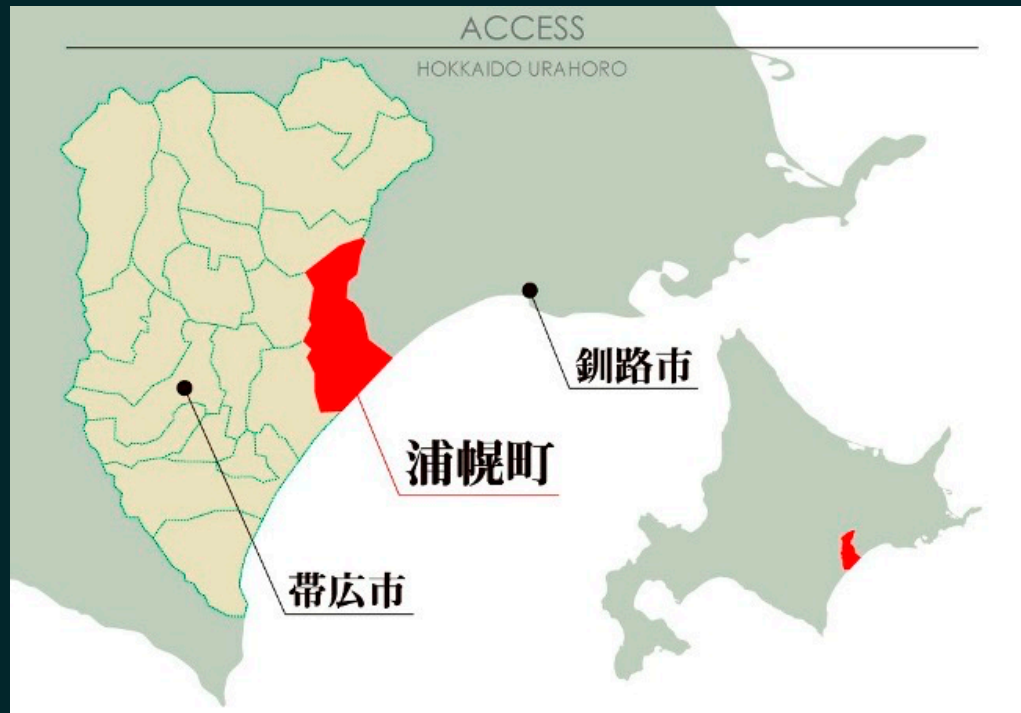
持田誠(浦幌町立博物館)

フォーラム「フランスから考える民俗資料の収集保存と活用方法」

日本新聞博物館(神奈川県横浜市)

# 浦幌町立博物館

- ・所在地：北海道
- ・浦幌町教育委員会設置の郷土資料館型博物館
- ・1969年に開町70年事業として旧郷土博物館を設置。1999年に開町100年事業として現在地へ移転し、浦幌町立博物館となる。
- ・図書館併設の複合館。
- ・2022年度より登録博物館。
- ・学芸員1名、事務職員1名



浦幌町は酪農・畑作・林業・漁業を主産業とする過疎地。人口約4200人。

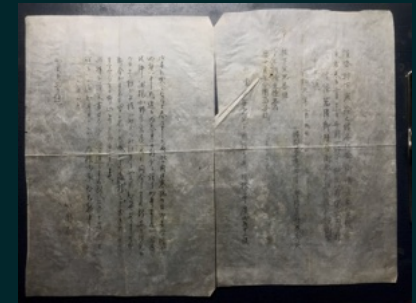
沿岸部を中心に縄文時代早期～続縄文・擦文時代にかけての遺跡が多く残り、北海道の考古学上重要な資料の出土もあったことから、1969年に十勝地方では初めての博物館として開館。

# 収蔵資料と収集方針

・浦幌町の位置する東十勝地方を中心とする白糠丘陵帯の、歴史・文化・自然に関する資料を収集・保存する。

→なんのために？

- ・地域の歴史や文化・自然を後世の人々に永く伝えていくため。
- ・地域を学術資源化し、人文・自然科学の両面から、地域の特色を明らかにし、そうした研究成果を地域に蓄積・公開していく拠点とするため。



# 郷土資料型博物館が守らないといけない資料

- ・公文書や学校資料など行政に由来する資料。
- ・記念誌・部落史・要覧などの地域出版物、印刷物。
- ・個人の手紙、写真など。
- ・地域の農業や商業など産業に関する資料。
- ・地域の民俗、宗教、民族に関する資料。



地域＝行政区域(自治体)

地域＝行政区域(自治体)

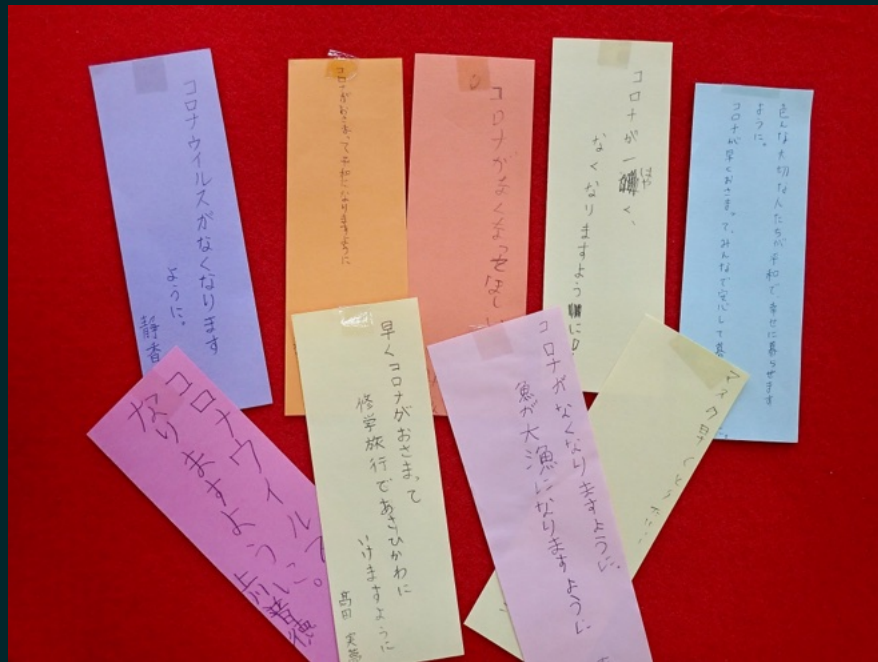
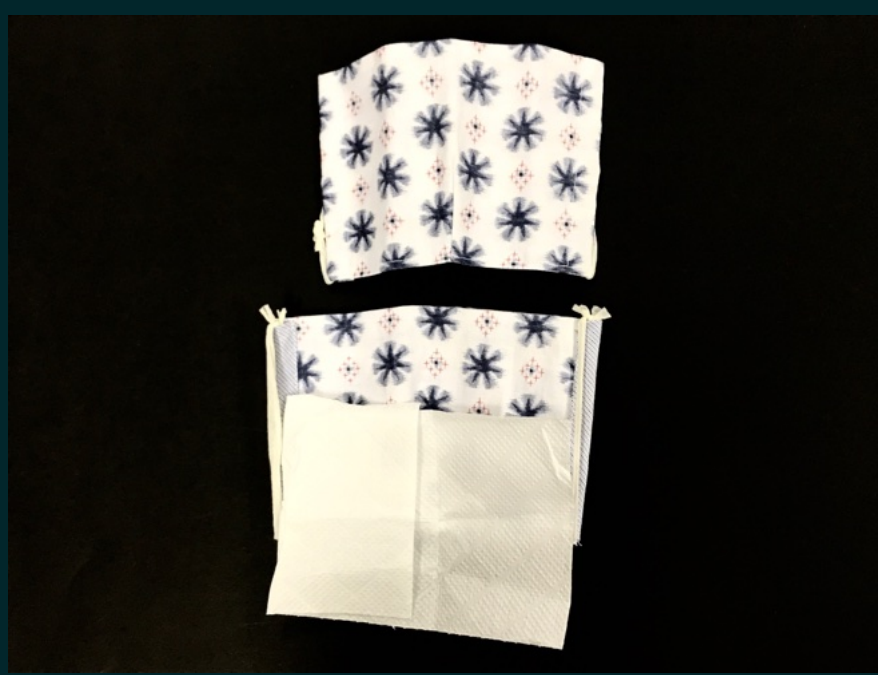
地域＝行政区域(自治体)

人間が引いた境界線で区切られた「地域」＝「社会」の中に集まる資料  
「ここで育った」「ここで暮らした」人々の思いが染みついた資料

# 現代資料の収集(コロナ関係資料)

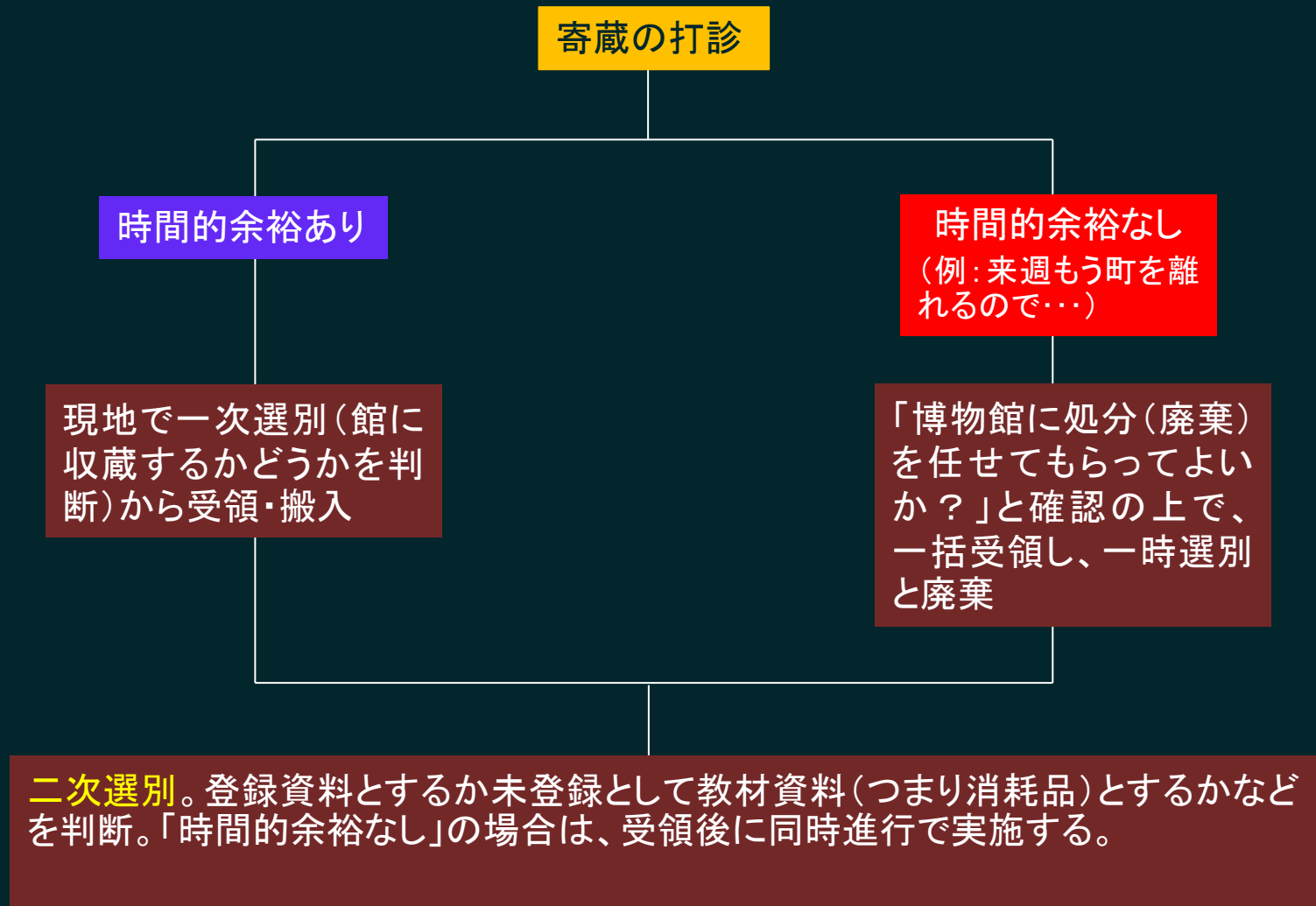
←市販のマスクが枯渇したため、着物やワイシャツを裂き、ガーゼの代わりにキッチンペーパーを挟み、ストッキングをゴム紐代わりにして作られた、手作りのマスク。

↓コロナ禍での子どもの書き初め

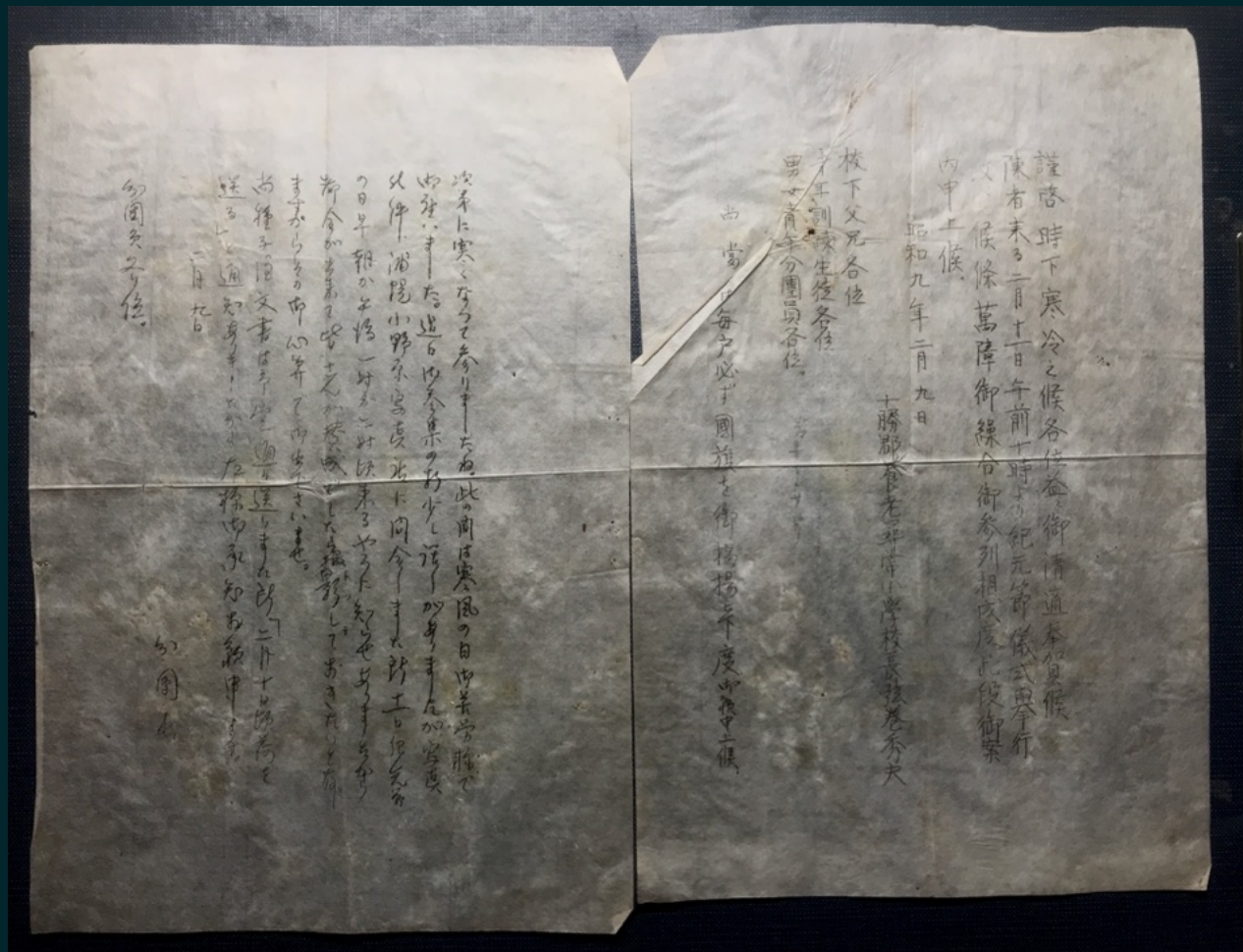


↑コロナ禍での七夕の短冊

# 浦幌町立博物館の資料収集の実際



# ■ ゴミ箱から資料を集める



1934(昭和9)年の紀元節(現在の建国記念の日)に集落で記念写真を撮影するため、集合を呼び掛ける回覧

離農する農家さんから資料引き取りの打診を受けて訪問したところ、庭先の納屋の隅に木箱があり、丸められた古い紙が多数入っているのを確認した。「ゴミ箱だよ」という農家さんの許可を得て箱ごと回収し、博物館でひとつひとつ広げてみたところ、戦時中の小学生の日記や、紀元節を記録した町内会の回覧などが含まれており、資料化した。

# 「廃棄を含めて収集」という方針

浦幌町立博物館では、受領後廃棄を念頭に廃棄予算を計上。

「廃棄を含めて収集」と考え、資料保存を最優先しているが、博物館資料論的には本来的ではないと思う。

寄贈者には「こちらに選別・廃棄を任せてもらえるか？」の確認をとる。

だが、時間的余裕がある場合にも、「将来的に廃棄や移管が行われる可能性が無い訳ではないので、寄蔵後の判断は博物館へ委ねる」という説明をし、了解を得る。

寄贈者申し込み書の様式にまだ上記への了承を記録する欄が無いので、内規を改定する予定(写真類の著作権放棄も含め)



# 資料収集と調査研究

# ■ 上田式豆播器の調査



上田式豆播き器（北海道博物館所蔵）

北海道博物館の山際学芸員（産業史）

実態のよくわかっていない収蔵資料について、全道の学芸員で情報を交換すると共に、北海道博物館の産業資料担当の学芸員が体系的な調査を実施し、論文として報告。

調査⇒研究⇒論文化（実態情報の整理と学術資源化）

⇒わかりやすく地域へ還元



# ■重複資料の収集（唐箕の事例）



搬入される唐箕。唐箕は重複が多い。

同じような資料をいくつも収集するケースがある。基本的には避けたいが、モノによって背景のストーリーに特別な意味がある場合がある。そうした場合、地域資料として重複してでも收藏する価値がある。

## 本別町歴史民俗資料館で展示中の樋口式唐箕

2022年に浦幌町立博物館で採集。調査の結果、「樋口式改良唐箕」で製造販売は本別町の樋口農機具製造とわかった。

本別町歴史民俗資料館で調査の結果、昭和20年7月の地図には掲載されている農機具商と判明。その年の本別空襲で甚大な被害を受け、製造者の樋口直太さんの妻カネさんが亡くなっている。本別町ゆかりの資料であり、空襲関連資料でもあることから、同館へ移管し、開催中の「本別空襲展」で展示中。



# ■重複資料の活用（動態保存）



唐箕での大麦脱穀体験

重複資料があることで、資料を実際に動かして活用する「動態保存」も可能となる。

資料は保存時の状態から姿を変えていく（使用後に洗浄・メンテナンスをおこなうため）

まだ資料の現役時代を知っている方がいるうちに動かして見せることで、より詳しい情報が得られる利点もあり、記録化の上でも有効。



足踏み式脱穀機と唐箕の活用



# 資料収集の現状と博物館

# 緊急を要する地域資料の収集保存

いま、急速に地域の資料が失われつつある

## 【背景】

- ・永年、地域の資料保存拠点のひとつだった学校の統廃合が進み、校舎の解体と共に資料が廃棄されている。
- ・災害対策や防犯対策などから、廃屋や無人家屋の取り壊しが積極的に実施されるようになり、明治以降、なんとなく残っていた建物が解体されるに至り、なかに残っていた近代資料がともに廃棄されている。
- ・博物館のある町では収集に取り組めるが、無い町の資料は行き場を失い、そのまま廃棄される。



# 知事「月内に移転着手」

## 美術品ずさん保管 活用・保全検討初会合

府所蔵の美術作品105点が咲洲庁舎（大阪市住之江区）の地下駐車場に置かれていた問題で、府は18日、専門家らで作る「アート作品活用・保全検討チーム」の初会合を同庁舎内で開いた。吉村洋文知事は会議の冒頭で「今月中に地下駐車場の作品の移転に着手する」と表明。移転先は府有施設を検討しているという。チームは今後、105点を含む府コレクションの活用や保全について協議し、今秋に中間報告、来年2月ごろに最終報告をとりまとめる。【山田夢留、東久保逸夫】

### 「売却」案に専門家異論

作品の重要性や今日性を伝える文脈を作らないうと、見づらいのではないかと、いった指摘が出された。105点の大型作品については、上山氏が「作品をどこまで持ち続けていけばいいのか」という根本的な問題が出てくると思う」と述べ、売却なども含め検討することを提案。これに対し山梨氏や鷺田氏は「持っている作品を処分するという考え方は、特に公立の美術館では適用が許されない」と述べ、反対の意向を示した。府はコレクションのデジタルミュージアム構想を進めていることから、上山氏は「デジタルで見られる状況にしてあげば、（立体作品の）物理的な部品は処分し

てもいいというのはありえると思う」とも述べたが、山梨、鷺田両氏は「裏付けとして現物を持っていることは必要だ」と指摘した。



「アート作品活用・保全検討チーム」初会合の冒頭で発言する吉村洋文知事（右奥）大阪市住之江区で

チームは山梨俊夫・前国立国際美術館館長が座長を務め、鷺田めるろ・十和田市現代美術館館長、木ノ下智恵子・大阪大21世紀懐徳堂准教授と、上山信一・府特別顧問が出席。府側からコレクションの収集経緯や現在の保管・展示状況などについて説明を受けた。委員からは「展示が単体でされているが、その

毎日新聞(大阪版)2023年8月19日



開催されたIRの住民説明会では参加者から質問が相次いだ—大阪市中央区で

# 大阪府の美術品保管問題

# 電気代高騰でクラウドファンディングをする 国立科学博物館

## 財政難「科博に1億円寄付を」→9時間半で達成

国立科学博物館(科博、東京都台東区)は7日、光熱費などの高騰で所蔵品の収集・保管資金が大幅に不足しているとして、寄付を募るクラウドファンディングを始めた。約9時間半で目標の1億円が集まった。寄付額に応じてオリジナルグッズや館長らによるバックヤードツアーなどの返礼品を用意する。寄付の募集は11月5日まで続ける。

1877年創立の科博は、日本を代表する科学博物館の一つ。60人以上の研究者が

所属し、動植物や鉱物、化石、人骨などの標本や資料を収集し研究している。所蔵品総数は東京・上野の博物館と茨城県つくば市の筑波研究施設で計500万点を超え、年間約8万点ずつ増えているという。大半を保管する筑波研究施設では、スペースや人手の不足で未整理な資料も多く、新しい収蔵庫を建設中だ。

ところが、新型コロナウイルス禍やウクライナ情勢などで財政難に陥った。動物の剥製や植物標本などは温度と湿度の

管理が欠かせないが、今年度の光熱費は3億8000万円と、2021年度から倍増する見込み。新収蔵庫の建設費は、資材や人件費の高騰で当初予定より大幅に増えた。一方、19年度に約1億円の収入が入ったが、20年度は収入が5分の1に落ち込んだ。資金入りを断るケースも出てきた。2021年に独立行政法

毎日新聞2023年8月8日

朝日新聞2023年8月12日

第3種利用物品認可

## 社説

Editorials

### 博物館の苦境

### 国は当事者意識を持って

自然や人々の営みの痕跡を集めて研究や展示に生かし、次代へ引き継ぐ。そんな役割を担う博物館は、過去を起点に現在や未来の社会のありようを考える上でますます大切な社会インフラになっている。その拠点が、待たなしの苦境に陥った。

東京・上野の国立科学博物館が今週、標本や資料を収集・保管する費用にあてるため、クラウドファンディングで寄付を募り始めた。わずか9時間半で目標の1億円に達し、きのうまでに約6億円が集まっている。

たくさんの人々が博物館の現状に関心を向け、潜在していた多くの善意を掘り起こす機会となった。収入源の多様化を求められている博物館にとって、意義のある取り組みとなったのではない。

しかし一方で、資料を集めて適切な温度と湿度で管理するというごく基本的な機能の維持が、国内最大級の博物館ですら難しくなっているという現実もあらわになった。

科博の予算の8割は国からの交付金でまかなわれている。昨年度は約9億円で、ほかに入場料や寄付による収入がある。交付金が年々削られ苦しい運営が続いたこと、コロナ禍で入場者が激減、さらに光熱費が4億円近くまで倍増したことが大きな打撃になったという。

多くの文化財を抱える東京国立博物館も例外ではない。館長が今年1月、月刊誌に寄稿し「国宝を守る予算が足りない」と訴える事態となった。

こうした現場の切実さとは裏腹に、政府や政治の反応は鈍い。同館は不足分の光熱費について対応を求めたが、いまだに結果が出ない。岸田文雄首相や永岡桂子文部科学相も、人ごとのような発言に終始している。国立の文化施設が独立行政法

人になって20年あまり。日本を代表する博物館が光熱費を工面できず、寄付に頼らざるをえないという帰結を政府はいったいどう考えているのか。

大型の施設に限らず、国内各地の博物館を取り巻く環境は厳しい。6割の館で資料購入にあてる費用が全くないとの調査結果もある。収蔵庫が不足し施設は老朽化が進む。学芸員には専門性が求められるのに、非正規雇用も多い。それでも文化庁の博物館機能強化推進事業の予算は年間4億円ほどにすぎない。

政府は博物館に観光の中心になれと旗を振るが、最低限の活動もままならないのに、なぜそれが可能なのか。目先の産業振興に膨大な額の予算をつぎ込みながら、その礎になる部分を軽視しているようでは、本末転倒としかいえない。国が果たすべき役割について真剣に考えてもらいたい。



# 全国の博物館で収蔵庫はすでに飽和状態に



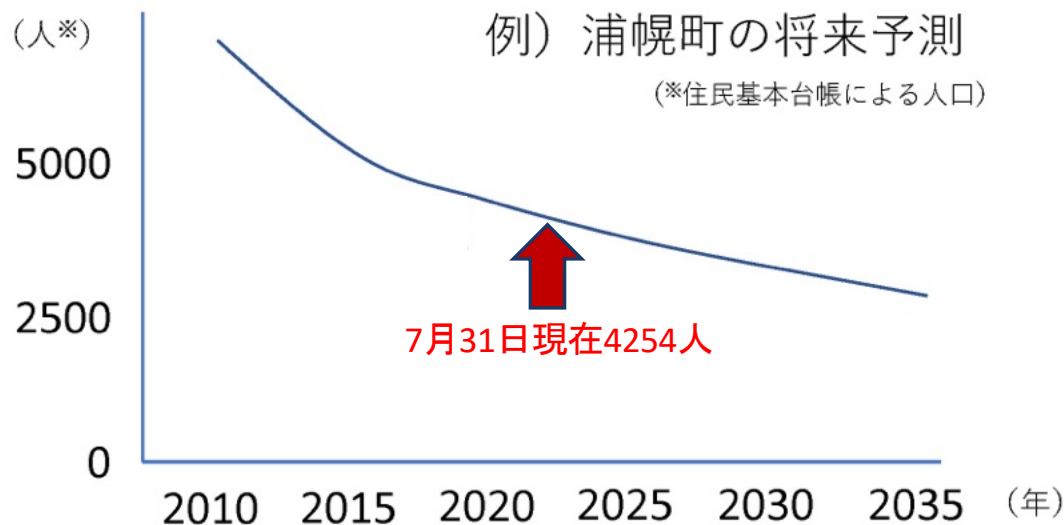
浦幌町立博物館の吉野収蔵庫

# モノを守り伝える本気と覚悟が町にあるか？

## お金もヒトもかかるモノの保存と博物館の運営

人口減少で、設置者である基礎自治体そのものの体力が急落

- ・ 税収低下
- ・ 学芸員の雇用不安
- ・ 資料管理不安
- ・ 施設管理不安
- ・ 施設維持不安
- ・ 資料維持不安



※町立病院、町立図書館の基礎自治体での維持が問題視されているなか、博物館を基礎自治体で継続できる可能性はかなり危機的な状況

**新しい地域資料の収集・保存体制の構築が急務**

博物館の機能分担と、地域を越えたより広域の連携が、必然的になってくるのではないかと？

モノを守り伝える本気と覚悟が町にあるか？

お金もヒトもかかるモノの保存と博物館の運営



覚悟が無いのならば  
博物館なんてやめた方が良い。

# 浦幌町立博物館の資料収蔵状況

総収蔵件数 19,455件 (埋蔵文化財資料・一部の未登録資料を除く)

|       |       |
|-------|-------|
| 記録資料  | 732件  |
| 考古資料  | 871件  |
| アイヌ資料 | 128件  |
| 産業・生活 | 7512件 |
| 文書資料  | 7337件 |
| 美術資料  | 34件   |
| 地学標本  | 41件   |
| 生物標本  | 2457件 |
| 天文資料  | 25件   |
| そのほか  | 318件  |

# 浦幌町立博物館の資料収蔵状況

総収蔵件数 19,455件 (埋蔵文化財資料・一部の未登録資料を除く)

記録資料 732件

考古資料 871件

アイヌ資料 128件

**産業・生活 7512件** ←地域資料(郷土資料)の中核

文書資料 7337件 大半が民具や大量生産品(民俗資料)

美術資料 34件

地学標本 41件

生物標本 2457件

天文資料 25件

そのほか 318件

## ■ 収蔵資料の選別廃棄と機能分担



開催中の「床屋さんの道具展」・・・資料は工業生産品が多い

## ■ 収集の目的



1. 町にあった産業の記録。地域の歴史を伝える・・・看板、張り紙の類
2. 理容に関するモノの歴史の記録・・・剃刀、機械類など
3. 時代毎の経済や世相の記録・・・価格表、流行品、メモなど

## ■ 収集の目的



1. 町にあった産業の記録。地域の歴史を伝える・・・看板、張り紙の類
2. 理容に関するモノの歴史の記録・・・剃刀、機械類など
3. 時代毎の経済や世相の記録・・・価格表、流行品、メモなど

展示によって町の産業を記念することも地域博物館にとっては重要な役割



## ■ 収集の目的



1. 町にあった産業の記録。地域の歴史を伝える・・・看板、張り紙の類
2. 理容に関するモノの歴史の記録・・・剃刀、機械類など
3. 時代毎の経済や世相の記録・・・価格表、流行品、メモなど

展示によって町の産業を記念することも地域博物館にとっては重要な役割  
展示が終わると必ずしも保存の必要のない資料もある

## ■ 収集の目的



1. 町にあった産業の記録。地域の歴史を伝える・・・看板、張り紙の類
2. 理容に関するモノの歴史の記録・・・剃刀、機械類など
3. 時代毎の経済や世相の記録・・・価格表、流行品、メモなど

展示によって町の産業を記念することも地域博物館にとっては重要な役割  
展示が終わると必ずしも保存の必要のない資料もある

## ■ 収集の目的



1. 町にあった産業の記録。地域の歴史を伝える・・・看板、張り紙の類
2. 理容に関するモノの歴史の記録・・・剃刀、機械類など
3. 時代毎の経済や世相の記録・・・価格表、流行品、メモなど

展示によって町の産業を記念することも地域博物館にとっては重要な役割  
展示が終わると必ずしも保存の必要のない資料もある  
活字と写真によって記録の上、廃棄か他館への移管を行う

# (例) 理容ミュージアム

全国理容生活衛生同業組合連合会 📞 03-3379-4111 📧 お問い合わせ

[ホーム](#) [全理連とは](#) [全理連の取り組み](#) [ヘアスタイル](#) [理容アラカルト](#) [サービス](#) [理容師の皆様はこちらから](#)

全国理容生活衛生同業組合連合会 > サービス > 理容ミュージアム

**サービス**

- 全理連ビル案内図 >
- 月極駐車場 >
- 貸会議室 >
- 代々木の宿 >
- 理容ミュージアム >

**理容ミュージアム**

✂ 理容ミュージアムのご案内



床屋さん関係資料を収集する「理容ミュージアム」(東京都渋谷区代々木)

## ■ 廃棄の検討

### 【廃棄の目的】

- ・ 未来に渡ってモノを収集し続けるための空間の確保。

## ■ 廃棄の検討

### 【廃棄の目的】

- ・ 未来に渡ってモノを収集し続けるための空間の確保。  
↑ モノ収集を止めるための手段ではない

## ■ 廃棄の検討

### 【廃棄の目的】

- ・ 未来に渡ってモノを収集し続けるための空間の確保。

↑ **モノ収集を止めるための手段ではない**

※図書館における本の「除籍」は、大量生産品である「図書」という「情報媒体」の新陳代謝をはかるための行為（なので、1点ものの郷土資料は除籍対象外）であり、博物館とは目的が異なる

## ■ 廃棄の検討

### 【廃棄の目的】

- ・ 未来に渡ってモノを収集し続けるための空間の確保。

↑ **モノ収集を止めるための手段ではない**

※図書館における本の「除籍」は、大量生産品である「図書」という「情報媒体」の新陳代謝をはかるための行為（なので、1点ものの郷土資料は除籍対象外）であり、博物館とは目的が異なる

### 【廃棄の前提】

- ・ その資料もしくは類似の資料が「どこか」に残っているか？
- ・ その資料を失っても、その資料が表す資料性・記録性を代替できるだけのコレクションがあるか？



## ■ 廃棄の検討

### 【廃棄の目的】

- ・ 未来に渡ってモノを収集し続けるための空間の確保。

↑ **モノ収集を止めるための手段ではない**

※図書館における本の「除籍」は、大量生産品である「図書」という「情報媒体」の新陳代謝をはかるための行為（なので、1点ものの郷土資料は除籍対象外）であり、博物館とは目的が異なる

### 【廃棄の前提】

- ・ その資料もしくは類似の資料が「どこか」に残っているか？
- ・ その資料を失っても、その資料が表す資料性・記録性を代替できるだけのコレクションがあるか？

↑ **単館による廃棄判断は妥当ではなく危険**

第3種郵便物認可

# 市民寄贈の民具600点処分

## 市教委 旧文化財整理室の解体時

【江別】市教委が今夏、旧文化財整理室（大麻北町）の解体工事を行った際、敷地内の収蔵庫を内部の資料ごと処分していたことが13日分かった。資料は市民から寄贈された民具約600点。市教委は、建材にアスベスト（石綿）が使われ、アスベストの粉じんが屋内で検出されたことから「資料と建物を同時に処分せざるを得なかった」とするが、寄贈者には事前に伝えていなかった。

## 建材に石綿 飛散防止で

市教委によると、収蔵庫は鉄筋コンクリート造平屋で延べ床面積120平方メートル。旧NHK野幌ラジオ送信所の敷地に1957年、



- ④市民から寄贈された民具が収められた収蔵庫の内部
- ⑤今夏取り壊された収蔵庫の外観（いずれも市教委提供）



発電機庫として建てられた。80年に市が土地と建物を購入し、送信所は文化財整理室、発電機庫は収蔵庫として使った。

アスベストによる健康被害が問題化したのを受け、市は2005年に各施設を調査した結果、収蔵庫の天井にアスベストが吹き付けられていることを確認し、立ち入り禁止にした。その後、敷地の売却を決め、20年に再調査すると、屋内の粉じんなどからもアスベストを検出した。飛散を防ぐため、資料を取り出さずに取り壊すことにした。

収蔵庫に収められていたのは1960～70年代に市民から寄せられた民具などのうち、91年開館の市郷土資料館に収蔵されなかったもの。木製農具や戦前の食器や棚などがあつたとするが、リストも見つかっておらず、正確には分からないという。収蔵庫とは別に、整理室に保管されていた約2万点の資料は、新たな文化財整理室となった旧角山小に2021年度中に移された。

収蔵庫内の資料の処分について市教委は、手続的に瑕疵はなかったとする。ただ、寄贈した市民らに事前に伝えていなかった。市文化財保護委員会の小林孝二委員長は「市民の共有財産が無断で処分されたことは重大な問題。市教委には今回の経緯をしっかりと検証してもらいたい」と話した。

市教委の伊藤忠信教育部長は取材に「関係者への配慮が足りなかった。再発防止に向け、現存する資料の管理などを徹底したい」と述べた。

（土門寛治）

## ■考えられる問題点

- ・ 目録を作製しておらず、何が収蔵されていて何が廃棄されたのかの情報が無い

→ 最初から何も無かったことになってしまう  
寄蔵した人たちは、市に大切な資料を委ねたと思っているが、  
そもそも最初から寄蔵など無かったことにされてしまう

- ・ 寄贈者との間で廃棄に対するコンセンサスが得られていたのかが不明。

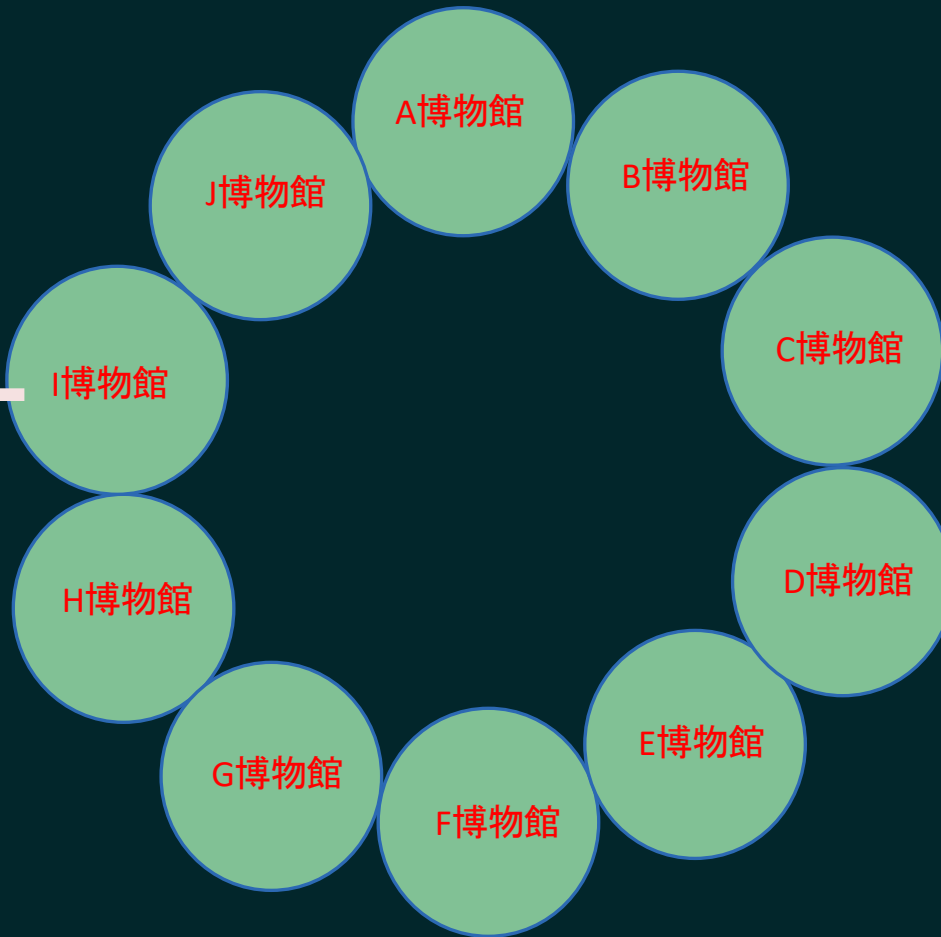
→ 市に寄蔵した段階で所有権が市に移転しているので、廃棄の判断も含めて全権が委譲されているという考え方は、手続き的には正しいかもしれない。が、寄贈者としては、市の歴史を記録する資料として活用されることを念頭に寄蔵しているのであって、「市に寄蔵したのだから、これで安心」と考えるのが普通。通常、廃棄されるとは考えない。

- ・ 結局、あの収蔵庫と収蔵資料には、どのような意味があったのかが不明なまま、歴史から消えていくことになる

# 資料保存情報のネットワーク

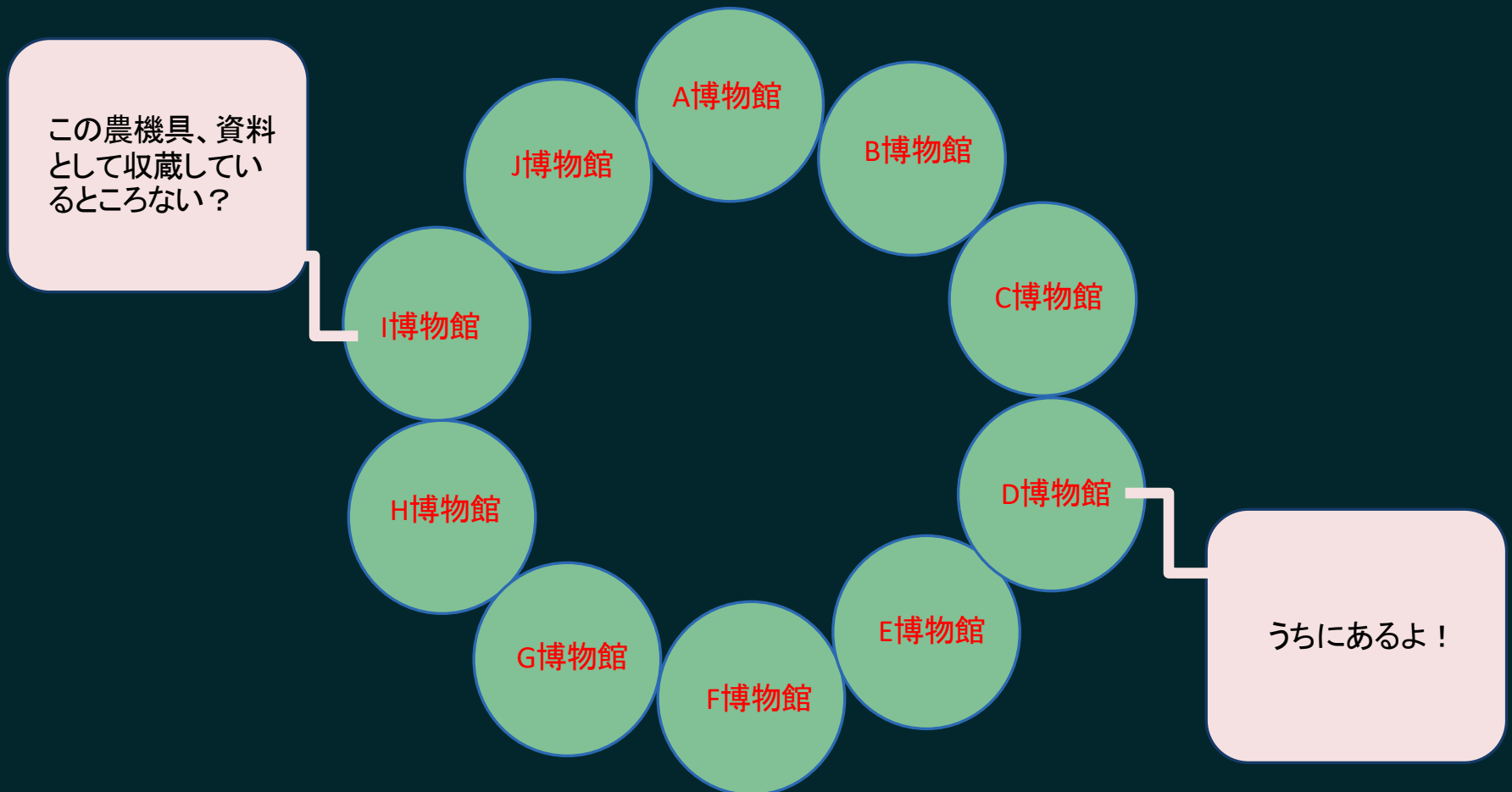
農具や家電など、大量生産品を中心に、いま全国の博物館に類似の資料が残っていないかを検索する情報ネットワークが必要

この農機具、資料として収蔵しているところない？



# 資料保存情報のネットワーク

農具や家電など、大量生産品を中心に、いま全国の博物館に類似の資料が残っていないかを検索する情報ネットワークが必要



# 一歩進めて収蔵資料の分担も

どの町でも同じような民俗資料を保存している場合が少なく無い。  
だが、必ずしもその必要は無いのではないか？



似たような資料が集まりがちな民具。

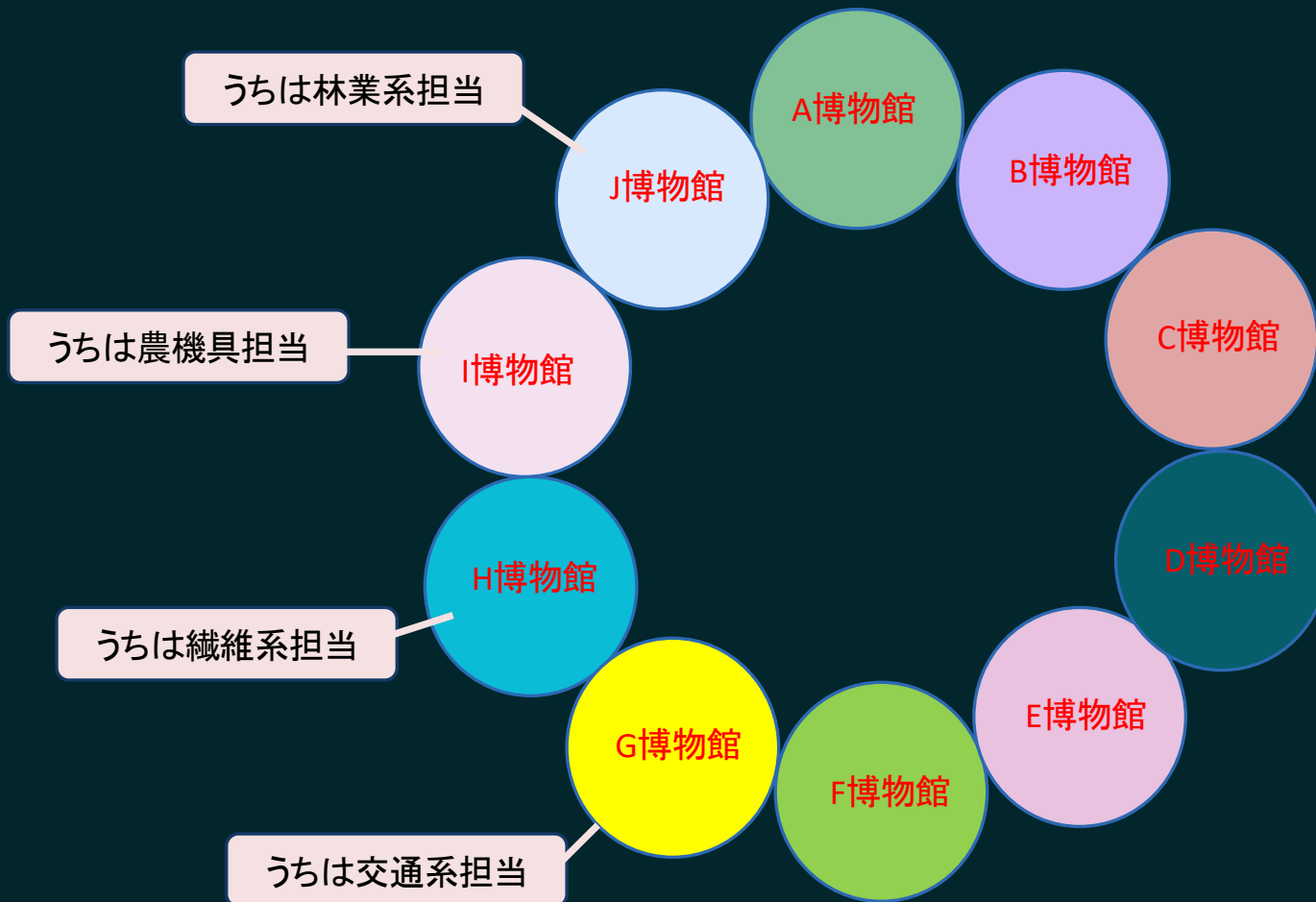
だが、常設展示や真に地域性のある資料以外に、どの館の収蔵庫にも、類似が蓄積される傾向がある。



(重複資料の重要性や意義は十分に理解した上で)

# 収蔵資料分担の考え方

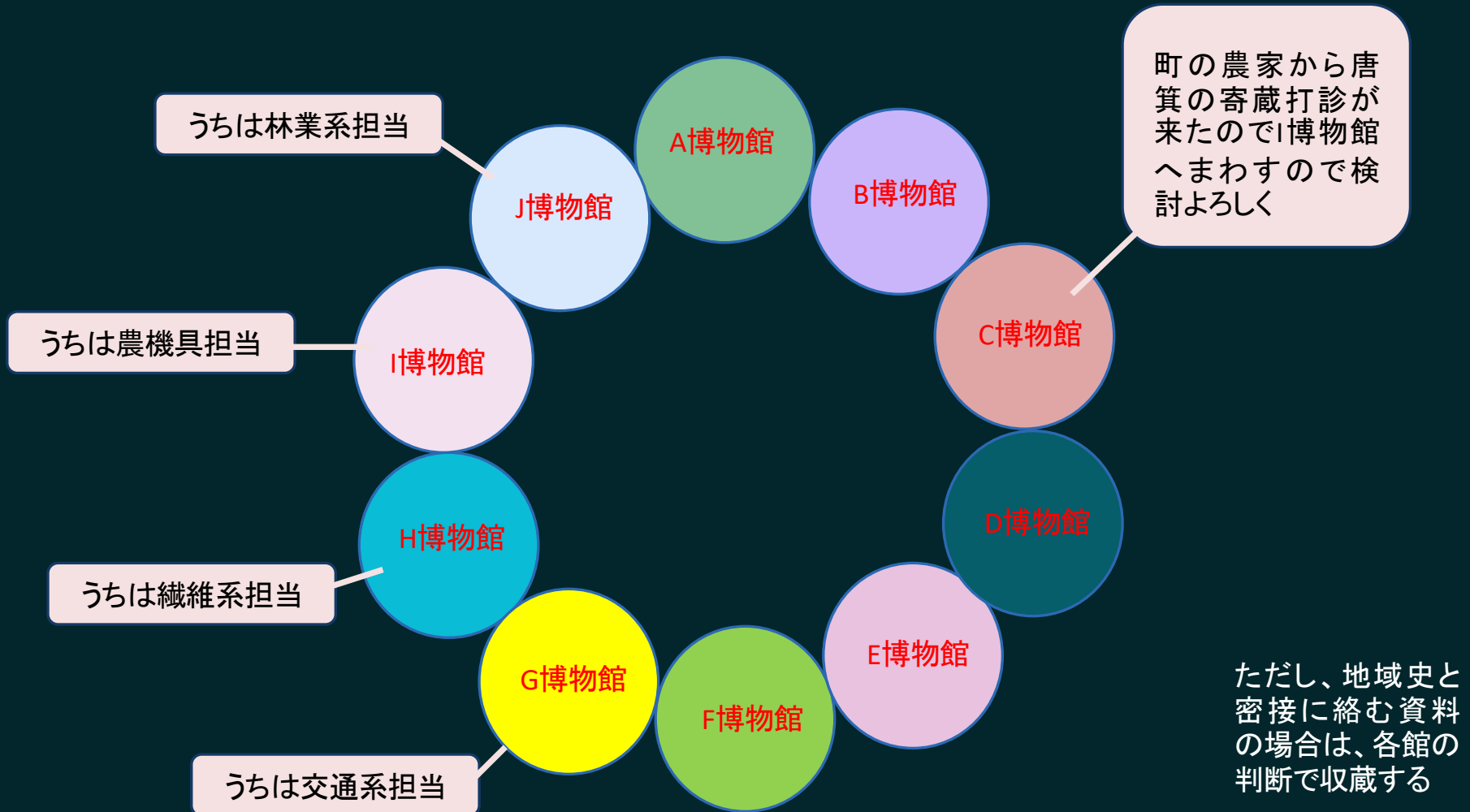
どの町でも同じような民俗資料を保存している場合が少なく無いので、一定の地域ごとに収蔵資料の分担を決めて共同保存する方法



ただし、地域史と密接に絡む資料の場合は、各館の判断で収蔵する

# 収蔵資料分担の考え方

どの町でも同じような民俗資料を保存している場合が少なく無いので、一定の地域ごとに収蔵資料の分担を決めて共同保存する方法



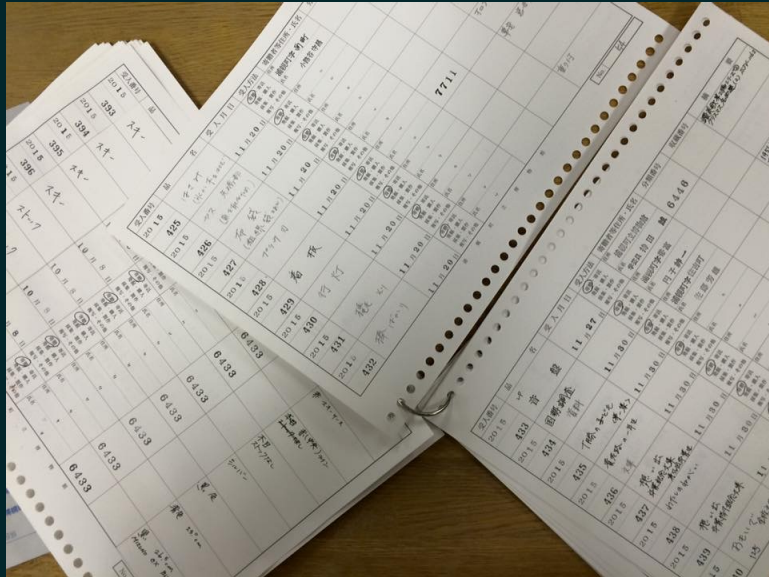


## ■博物館資料の適切な選別・廃棄のために

1. 館を横断する民具資料データベースの構築(一般公開しなくても良い)
2. 資料の選別・廃棄を単館的に判断しないネットワークの形成
3. 収蔵資料分担など、地域資料の収集に関する新しい連携方式の模索
4. 国立の博物館や各都道府県の中核館は、引き続き、収蔵庫の整備・拡大を求める。そのための協力や連携に、地域博物館も関わられるように。
5. 収集時の「廃棄」に関する説明と了承の徹底。「収集の前提として、将来廃棄するかもしれないが、その判断は博物館に委ねる」という説明と、了承意思の記録 → 寄蔵申込書へのサインなどで
6. 収集方針の明確化と共に、廃棄に関する考え方を示す必要がある。これは単館的に作るよりも、博物館協会等でガイドライン化した方が良いか？  
→ICOMの倫理規程などを援用

# 資料情報の整理・登録

(受入台帳は電子化・原簿は紙ベース)



受入台帳



デジタル化と公開が現在の課題

| 文書資料記録票                        |   |                     |                                  |
|--------------------------------|---|---------------------|----------------------------------|
| 分類番号                           | 収蔵番号<br>2023-215                          | 収蔵<br>2023年8月13日    | 所在                               |
| 資料名<br>住民登録関係綴                 | 数量<br>1冊                                  | 通・数<br>巻・( )        | 受入方法<br>④ 寄託・購入・<br>複写・謄写 ( )    |
| 形<br>洋本・写本<br>部本・( ) 290 × 920 | 綴<br>平・半平・綴長平・綴半平・( )<br>巻・美大・綴長巻・綴美平・( ) | 年代<br>1960年代        | 受入<br>2023年4月19日                 |
| 成立<br>④ 撰・下書・写・複写・( )          | 著者<br>氏名 浦野町役場 町民課                        | 職業<br>年齢 歳          | 寄贈者・寄託者・購入先<br>受入担当者<br>学芸員 持田 誠 |
| 著者<br>(作成者・著者)                 | 編者<br>編者 学芸員 持田 誠                         | 撮影<br>撮影 2023年8月13日 | 複製者<br>複製者 学芸員 持田 誠              |
| 移動年月日                          | 写真番号                                      |                     |                                  |
| 受入時の状態                         | 受入経過<br>町民課 学芸員より寄贈打診<br>役場1階倉庫から引き取り     |                     |                                  |

浦野町立博物館

資料原簿

# ■保存と廃棄は一体的に考えるべき

産業技術史資料情報センター Center of the History of Japanese Industrial Technology

産業技術史資料情報センター  
Center of the History of Japanese Industrial Technology

科博史上最大の挑戦  
クラウドファンディング実施中  
2023年11月5日(日) 23時まで  
#地球の宝を守れ

産業技術史資料情報センターについて

研究活動

普及活動

アクセス

科博の施設 上野本館 附属自然教育園 筑波実験植物園 標本資料センター

トピックス

7月14日 ▶ 「技術の系統化調査報告書 図書一覧/概要」のページに新しい報告(第32集)を追加しました。  
長井 寿 「鉄鋼材料の信頼性向上技術の系統化調査」  
鈴木 真之 「薄膜トランジスタ用透明酸化物半導体材料の系統化調査」  
岩崎 健史 「放電加工機技術の系統化調査」  
堀 俊和 「国内公衆無線通信におけるアンテナ技術の系統化調査」  
ページ右のボタン(下から3番目)よりお進みいただけます。

産業技術史資料データベース

重要科学技術史資料(未来技術遺産)

HITNET  
産業技術史資料共通データベース

かつて国は「産業技術史博物館」設立の構想を立て、資料も収集・保存していたが、計画は立ち消えとなり、資料は散逸した…

廃棄やデジタル化の前に、国はとことん本気で資料収集を続ける覚悟を！

地方博物館における資料のデジタル化や廃棄は、積極的な収集を続ける収蔵庫の整備と表裏一体で行われるべき

国規模での生活史・産業史の資料保存体制と、地域の資料保存は、連動して一体不可分で進めるべき課題